

地域公共交通意見交換会（飯豊地区）

5月24日13時30分から、飯豊地区交流センターで、地域公共交通意見交換会が開催され、コミュニティバスに関する現状説明と、市と住民による意見交換が行われました。

概要

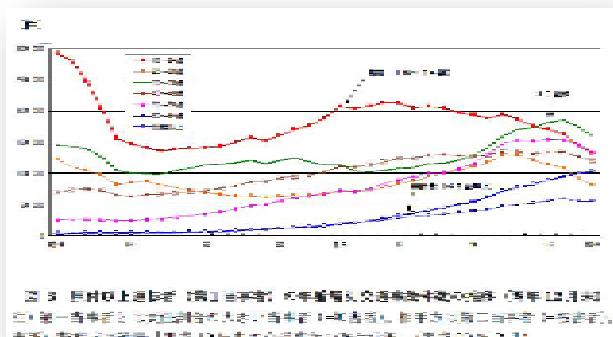
北上市企画部政策企画課より、あいさつと今回の意見交換会の趣旨説明がありました。

不況となり、だんだんと人口特に、(労働人口)は減ってきている。

続いて、いわてNPO-NETサポートより、

「バスを公共が担う理由として

- 1. 地球環境・低炭素型社会の実現
 - 1 人の人間が動く際のCO₂排出量がバスは車の3割程度
- 2. 交通事故の年代別推移

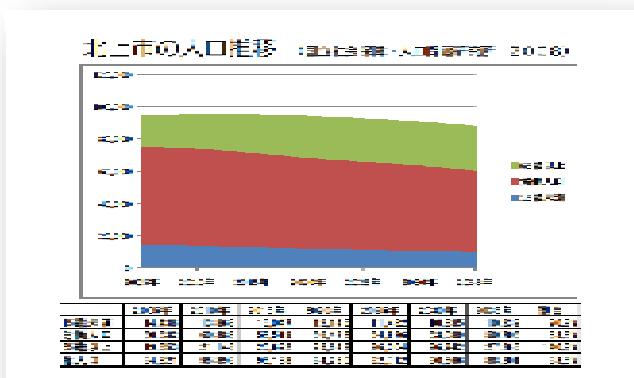


年々高齢者の事故率が上昇している

3. 岩手県の人口推移

平成18年から30年間で岩手県の人口は、35万人減少（盛岡市と滝沢村を合わせたぐらいの人口）

4. 北上市の人口推移



5. 国内旅客輸送量の分担率の変遷

乗用車が増えバスは減ってきてる

6. バスの輸送人員の変遷

年々減少し、路線廃止も増加しているとの資料説明がありました。

その後、北上市企画部政策企画課より

「北上市では、21年度県立中部に繋がるコミュニティバスの路線が28000人乗ると見越していましたが、実際は22144人であり予定より約6000人少なく、金額にすると120万円の赤字の状況であります。

また、運行事業の収入内訳は利用者の運賃収入と市の補助金でまかなっています。昨年度の運行経費が、11,33万3千円でそのうち運賃収入は28%（金額にすると約300万円程度）

7割以上市の税金で補てんしています。

運行経費は人件費や車両整備費、ガソリン、自動車税などと県交通への管理費などが含まれています。

23年度運行の見通しとして、今までの運行を継続するのは難しいですがコミュニティバスが無くなるわけではありません。朝の第一便は、北上駅までの利用が多くそれ以降はほぼ使われていませんので、経路や運行曜日を大幅に変えることなく、効率的な運行を考えていきたいです。

今後、北上市の今後の公共交通のあり方として7月に勉強会をさせていただき10月頃からコミュニティバスの運行内容の変更についてまた皆さんと話し合いをし、23年度の変更内容をまとめていきたいです。」との現状説明がありました。

意見交換

説明が終わり、意見交換の時間には以下の意見が出されました。

- ・コミュニティバスは、中部病院ができてから街まで行くのに前よりも時間がかかるようになったので、路線バスを使うようになった人がいる
- ・村崎野駅から中部病院までシャトルバスが出ているのか

- ・シャトルバスは市で補助しているのか
- ・シャトルバスの利用状況は把握しているか
- ・門屋から乗る時に汚染に買い物に行くと、帰りのバスが20分くらいで来てしまうので間に合わずタクシーで帰る人が多い。帰りもバスで帰れるようにしてほしい
- ・平成17年度から3000人ぐらい減少しているが、行政等で把握している減少の原因は？
- ・利用者が固定しているということだが、時間が変わったりすると利用者離れにつながる。そうすると新規利用者の獲得が必要では
- ・通院、買い物目的の利用者に便利に思ってもらうようしなければならない
- ・実際に利用している方に、アンケートなど直接声を聞くことも必要だと思う
- ・収入と補助金の適正な割合は、市としてどう考えているか
- ・利用料見直しもあるのか
- ・どうすれば利用が増えるかということも考えなければならないのでは
- ・買い物をする利用者の方々に対して、商店街と連携して割引券を出すなどサービスを考えてみては
- ・車の免許を持っていても、さらにバスに乗りたいと思うようなアイディアがあればいいと思う。観光地を見られるようにしたらいいのでは
- ・廃止にするようなことはしないでほしい

そして最後にいわてNPO-NETサポートより「コミュニティバスに関して、来年度は今年度と同じような運行は難しいので今後何らかの変更を検討していくことと、今年度中に改善できることはすぐやつていきたいと思います。」

とのお話があり、飯豊地区意見交換会が終了しました。

ちなみに、他の地区ではこのような意見がありました。

- ・少ない資金を有効に使ってほしい
- ・バス利用者が減ると赤字になり廃止になるかもしれないということを分かりやすく訴えるべきだ
- ・最終の時間が早いのでもっと遅くしてほしい
- ・フリー区間が増えればいい
- ・停留所の名前だけではどこに行くのか分からぬ
- ・時刻表に路線図をいれたらいいのでは
- ・朝1番の便が早すぎる
- ・冬の間スクールバスを利用できればいいと思う

